

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201099		
法人名	有限会社 ハッピーライフ		
事業所名	グループホーム チロリン村		
所在地	札幌市北区屯田5条12丁目12-10 (電話) 011-774-3993		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年7月20日	評価確定日	平成21年8月10日

## 【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 11月 20日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

## (2) 建物概要

建物構造	木造サイディング 造り
	2階建ての 1・2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費:25,000円 暖房代:8,000円(11月~3月)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,100円	

## (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3歳	最低	76歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆりがはら内科ケア&クリニック、勤医協北札幌病院、箱木歯科
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームチロリン村は緑豊かな住宅街に位置している。建物は民家を改造したものの、広い庭には季節の花々が美しく咲き、菜園から収穫される野菜は利用者の楽しみとなっている。運営者の理念のもとにホーム長・管理者が中心となり、利用者本位の愛のある暖かいケアが実践されており、利用者はゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。職員の教育体制が整備されており、正社員、準社員の区別なく「職員研修カリキュラム」に沿った教育を受けることができ退職者も少ない。ホームでは町内会の仕事を積極的に受け入れ、ホーム主催の夏祭りには町内の子供達が多数訪問してくれるなど地域との交流も盛んである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価での改善課題については改善シートを作成し積極的に取り組んだ。運営に関する家族等の意見を反映させるために、家族宛てにアンケート用紙を配布し、無記名で意見箱に投函してもらい意見を集約するなどサービス向上に努めた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を実施する意義については職員全員が理解している。今年度の自己評価は入社してから1年以上の職員を中心に作業を分担し、全員の意見を参考に内容をまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自己評価・外部評価も議題に取り上げサービス向上に生かしている。参加者からの意見は議事録に整理しケアの実践に活かしている。毎年1回は地域の警察や消防署の担当者を会議のゲストとして迎え、専門的な話や意見をいただいている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の訪問時には話しかけ個別に相談を受けている。年2回家族会を開催しているが、今年度は家族宛てにアンケート用紙を配布し、無記名で意見箱に投函してもらい意見を集約しサービス向上に活かした。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは積極的に町内会とかかわり、子供110番やAED設置施設としての役割を果たしている。町内会のお祭りではホームのすぐ傍が神輿の巡回コースとなっており、1本締め等を披露し利用者を楽しませてくれる。ホーム主催の夏祭りには町内の子供達が多数訪問してくれるなど地域との交流は盛んである。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当社から、利用者本位の自立を目指し、地域密着を意識した運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホームの共有部分と各居室内に掲載している。職員の採用時や採用後研修、日々のミーティングや全体研修会の都度、全員で理念を確認し日々のケアの実践に生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の仕事や子供110番、AED設置施設としての役割を果たしている。町内会のお祭りでは、ホームのすぐ傍が神輿の巡回コースとなっており、1本締めを披露し利用者を楽しませてくれる。ホーム側でも菓子や飲み物で労をねぎらっている。ホーム主催の夏祭りには町内の子供達が多数訪問してくれる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義については職員全員が理解している。前年度の外部評価については改善シートを作成し積極的に取り組んだ。今年度の自己評価は入社してから1年以上の職員を中心に作業を分担し、全員の意見を参考に内容をまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自己評価・外部評価も議題に取り上げサービス向上に生かしている。参加者からの意見は議事録に整理しケアの実践に活かしている。毎年1回は地域の警察や消防署の担当者を会議のゲストとして迎え、専門的な話や意見をいただいている。	○	今年度は、ゲストに他施設の施設長や外部評価機関の担当者を迎えたいとのことであり、その取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回は市の担当者を訪問し事業所の運営についての情報交換に努めているほか、ホーム長がキャラバンメイトとして市の活動に協力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、ホーム長か管理者が利用者の日々の状況を個別に報告している。訪問が少ない家族等には電話や手紙で対応している。家族連絡帳も工夫し作成している。ホーム便り、金銭出納帳・領収書は毎月発行し、家族等に報告し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には話しかけ個別に相談を受けている。年2回家族会を開催しているが、今年度の第1回目に家族宛てにアンケート用紙を配布し、無記名で意見箱に投函してもらい意見を集約しサービス向上に努めた。秋には2回目を計画している。	○	秋の家族会で実施するアンケートは、内容等をより工夫して実施したいとのことであり、その取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのホームなので職員の異動はない。長期に渡る雇用体制のもとに職員採用を考えているため職員の退職は少ないが、退職者が生じた場合は新入職員との引き継ぎ期間を長期に設け、利用者に対しては個々の性格や状態を配慮し、表現方法を変えるなど専門的なスキルで対応している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時のOJT、採用後研修からリーダー研修まで「職員研修カリキュラム」が確立されており、職員は採用形態に区別なく受講できる。外部研修は全職員が年2回以上受講している。受講者は研修後に報告書を作成し、毎月の研修会の場で発表している。	○	全職員が指示待ちの姿勢ではなく、自分で考え行動できるための研修内容を検討しているとのことであり、その取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム管理者会主催の研修や認知症実践研修等の機会には職員を参加させ、同業者との交流を図っている。	○	現在、複数の事業者と連携を図り、合同の研修や勉強会を開催する企画を行っているとのことであり、その取り組みに期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人と家族等にホームを見学してもらったり、あるいはホーム長等が自宅を訪問するなど本人と3回位は接触を持ってから入居してもらっている。ショートステイも実施している。利用開始直後は、利用者が不安を感じない様職員が傍について話しかけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じ目線での会話を心がけている。料理の得意な利用者には調理を、畑仕事の得意な利用者には苗の植え付けや草取りをしてもらっている。職員の勤務が遅番の際は、「疲れていないか」などの言葉を利用者からかけてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの日常パターンや状況を把握しており、身体に触れた時の表情や身体のこわばりや目線等から、体調の良し悪しや気持ちを汲み取れるようにしている。会いたい人、叶わぬ思いなど利用者の希望を引き出すよう努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、見学や訪問の中で課題や今後の暮らしについて家族、本人とも話し合い、それらの情報などを基に介護計画の原案を作成している。内容をカンファレンスで確認後、家族に説明し変更がなければ計画書に押印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は概ね3ヶ月ごとに見直し、新規の場合は1ヶ月ごとに見直すことが多い。カンファレンスでは情報を交換し、利用者の状態に変化が生じた場合はケアの内容を家族とも話し合い、必要に応じて作り直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情に応じて、緊急時や入退院の送迎を行い、個人の買い物や外食にも臨機応変に対応している。医療連携の体制がありホーム内での点滴も可能である。長期外泊や入院期間を利用し、利用者、家族の了解を得て短期入所を受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の病院や専門的な病院の受診などは希望に沿って支援している。協力内科医の月2回の訪問診療、週1回の訪問看護、歯科医の月2回の訪問に、その間、月1～2回は口腔ケアを実施し、それぞれの主治医と連携をとりながら健康管理に留意している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制、重度化や終末期への方針を説明し同意を得ている。また、看取りについては家族会でも常に話し合い再確認している。看取り介護も行っており、職員は終末期におけるマニュアルに沿って対応し、看取り後もミーティングなどで検証している。	○	看取りに至るまでの家族との綿密な話し合いの工夫を重ね、家族と一緒に内容を深められるような看取り介護の実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	来訪者の記名はカードで取扱い、書類などの個人情報情報は職員間で注意を払っている。排泄などでは利用者の思いに添い、個人を尊重した対応を重要視しており、職員が作業を行うような声かけをしていないか対応への気づきを促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、就寝まで居室で好きなように過ごし、遅くまでTVを観ている人もいる。朝食なども起床によってはその人に合わせ、利用者を中心に配慮している。また、家族との外食や買い物も個人の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回のお楽しみメニューや利用者からのリクエストメニューを献立に入れ、また、ホームの畑で採れた食材を食卓にのせるなど食べる楽しみを大切にしている。料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳など職員と一緒に行う中で共同生活の意識を高めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも入れる体制になっている。夜間も希望時には対応し、季節に合わせてシャワー浴、足浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝い、花壇の水やり、庭や畑の草むしり、洗濯物やタオルをたたむなど、役立つ思いをもって出来ることを手伝ってもらっている。月に数回の行事を計画し、音楽会、映画会などをホーム内で楽しみ、外食や苺狩りなど外出の機会も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には、ホームの庭にあるパラソルの下でお茶を飲みながら日光浴を楽しみ、数人に分けて近隣の庭に咲く花を観賞し、近くの公園におやつ持参で出かけている。冬季にも週に数回は外出し、散歩やショッピングセンターでの買い物などを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や庭に通じるベランダにもセンサーをつけず、出入りに注意し鍵をかけないケアを全員で取り組んでいる。職員はマニュアルや全体研修で常に危険予知について話し合い、利用者が安心して自由な生活を過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時のマニュアルがあり、防火管理者3名、応急担当者3名を決め防災対策を万全に整えている。消防署の指導のもと、春に2人体制を、秋には1人体制を想定し、利用者の参加や近隣住民の協力も得て避難訓練を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設時に保健センターの管理栄養士にカロリー計算を学び、ホーム長が栄養バランスを考え職員と一緒に献立を作成している。介護記録に個人ごとの水分量、食事量を記載し、不足時には個人の好みを取り入れて健康管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭がある民家を改造し、居間兼食堂は椅子席とソファに分け、ベランダから庭の花々や景色が見渡せる。壁には利用者と一緒に作った飾りや行事の写真が程良く飾ってあり、至る所に小さなぬいぐるみを置き、ぬくもりのある楽しい環境を作り出している。2階への階段は両方の手摺で安全に移動できるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では静かに過ごしたい人、見守りが必要な人など利用者に合わせた工夫がなされている。居室の広さに若干の違いもあるが、使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、写真や大小のぬいぐるみに囲まれたその人らしい居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。